

一般質問



これからの図書館の 意義と活用について



湖南市公明党議員団 ● 副田 悦子 議員

問 職員研修について

答 職員研修計画を基に職場内外での研修を実施しています。知識や技術の習得だけでなく、個別の育成をはかり自発的な意欲向上に努めています。そのため職場環境づくりに取り組みんでいます。

問 会計年度任用職員の研修について

答 公務員としての心構えや個人情報保護などに対する周知を行うと共に、人権研修は正規職員と共に実施しています。

問 図書館の意義と活用について

答 資料を「集め」・市民が「集い」「交わる」場所として、コロナ禍以前よりも更に子どもの居場所やアウトリーチサービスなど新しいまちづくりに積極的に関わっていききたいと考えます。

問 公共施設のWiFi環境について

答 現在、施設利用者が自由に使用していたくない状況です。魅力ある施設とするためにWiFi環境を含めたサービスの整備に取り組みしていきます。

問 産前産後の支援について

答 母子健康手帳交付時に母子保健コンシェルジュや保健師が面談し、妊婦と一緒にサポートプランを作成し、全ての妊婦に対して、また産後も全ての新生児訪問を行い支援計画に沿った支援を行っています。更に医療機関と連携してハイリスク妊産婦・児は早期からの支援につなげています。今後は妊娠8ヶ月時にアンケートを実施しより伴走型支援を進めていきます。



困難を抱える子どもなどの 支援について



無会派 ● 赤祖父 裕美 議員

問 湖南市の合計特殊出生率は、2018年に滋賀県や全国に比べ大きく落ち込んだ。人口減少、子育て支援対策は喫緊の課題です。国は、子ども家庭庁を新たに創設し児童福祉法を改正した。本市の新たな取り組みは。

答 石部保健センター内に母子保健と児童福祉を移管し、教育部とも更に円滑な連携を図りながら、強固な支援体制にしていきます。

問 新たな子どもの居場所について

答 夏休み期間中に、モデル的に実施し、効果的であれば、検証して次に繋げていきます。

問 アウトリーチなどひきこもり支援対策は。

答 民間事業者の意見も聞きながら、国が創設した「ひきこもり支援ステーション事業」の活用も視野に、本市が全国に誇る発達支援

システムの一層の充実につげられないか考えていきます。

問 スクールソーシャルワーカーの拡充は。

答 実績に鑑み、1名から2名に増員予定。

問 本を媒体にするなど、誰もが立ち寄れる居場所創出の考えは。

答 地域支え合い活動の取り組みは有効と考え、検討を進めます。

問 プラスチックごみの減量化について

問 子どもたちの環境学習の機会として、「マイクロプラスチック・ストーリー」の映画鑑賞を提案します。

答 学校長が教育課程を編成するので、ここでの回答はできません。

問 石部中学校のテニスコート改修と駐車場について

答 優先順位をつけながら、適正な管理に努めていきます。